

令和7年度 自己評価結果報告書

学校名

成田市立遠山小学校

1 学校教育目標

育て駒っ子 かしく やさしく 健やかに ふるさとを愛し 未来をたくましく切り拓く～

2 本年度の重点化された具体的な目標

①確かな学力の育成	・基礎的・基本的な知識・技能を習得させ、基礎学力の向上を図る。
②豊かな心の育成	・授業力の向上をめざし、教職員一人一人が自ら進んで研修する姿勢を大切にする。
③健やかな体の育成	・人権尊重の理念の理解を基礎に、いじめを許さない学校づくりに努める。
④地域と共に歩む学校づくりの推進	・集団活動を通して、「ありがとう」と言える子、「ありがとう」と言われる態度を育成する。
⑦安全安心な学校づくりの推進	・児童の実態を把握し、体育の授業及び日常生活における運動実践の充実に努める。
⑧特別支援教育の推進	・学校だより・学年だよりの発行や学校ホームページの随時更新により、情報発信に努める。
⑨教職員の働き方改革	・地域の教育力を有効に生かして、地域に根ざした特色ある学校づくりに努める。
	・防災教育を充実し、「自分の身は自分で守る」という防災意識の定着を図る。
	・本人・保護者の立場に寄り添いながら、合理的配慮に関する共通理解を構築していく。
	・校内行事等のスリム化を図り、業務の総量を減らすことで児童に向き合える時間を創出していく。

3 自己評価結果に対する学校関係者の評価・意見等

分野・領域	評価項目	評価の指標	取組状況	改善の方策
学校運営 教育課程	保：児童は学校が楽しいと感じているか。	全ての保護者から「適切である」との支持を得た。	A	①児童や保護者のアンケートからは、児童にとって楽しい学校であるという回答を得た。これは、小規模校ならではの異学年交流の充実や、保護者を含めた子どもたちが楽しみにしている様々な活動の充実、地域や保護者による学習ボランティア活動、近隣校との交流学習が大きな要因であると考え、次年度は、これまで以上に児童が主役となって、学校行事等に参画していける体制を、教育活動全般にわたって計画していく。
	保：児童の個性に応じた配慮や支援を行っているか。	昨年度より低くなったが、概ね肯定的な評価である。	B	②地域コーディネーターとの連携をさらに広げ、地域人材の積極的な活用や保護者とともに学習活動の場を充実したものにしていく。
	児：遠山小は、明るく楽しい学校だと思うか。	ほとんどの児童が楽しい学校だと感じている。	A	
	職：各教科の年間指導計画・進捗などが適切に作成されているか。	全ての教職員が「適切である」と評価した。	A	
学習指導	保：教員はきめ細かい学習指導に努めているか。	概ね肯定的な評価を得ている。	B	①学校における学習指導については、概ね良好な評価を得ているが、児童自身の学習意欲等については、昨年度引き続き自己評価が低いままである。
	保：学習に進んで取り組む子に育っているか。	昨年度とあまり変わらず、低い評価である。	C	②2学期より職員研修に力を入れ、指導力の向上に努めている。
	児：授業中、進んで発表しているか。	昨年度とあまり変わらず、低い評価である。	C	③「問題解決的な学習の展開」だ「発問の工夫」を授業改善の中核におき、一人一人の考えの違いや共通点を共有する学び合いを通じて、多角的な視点から課題解決に挑む楽しさを経験させていく。
	児：担任の先生は、間違えたり分からなかった時に、分かるようになるまで教えてくれるか。	ほとんどの児童が「適切である」と感じている。	A	④タブレット端末活用等の授業では、挙手による発表よりも画面上での意見交流が多く行われるため、来年度より質問を「意見交換（発信）しているか」と変え、実像に迫れるようにする。
	職：一人一人の状況を把握し、個に応じた指導を行っているか。	昨年度より自己評価が上がった。	B	
	職：児童の興味・関心を生かした自主的・自発的な学習を行っているか。	概ね肯定的な評価である。	B	
生徒指導	保：児童が困っていたり、悩んでいたときには、先生方が親身になって対応してくれるか。	昨年度より肯定的な評価が下がった。	B	①丁寧な教育相談については、保護者の肯定的な回答が下がっている。学校では、アンケートや教育相談等の充実、スクールカウンセラーの個人面談を実施するなど、問題の未然防止、早期解決に努めている。しかし、中には、悩みを抱えていてもアウトプットできないことも考えられるため、相談ボストの周知など、悩んでいることを気軽に相談できる場を増やしていく。
	児：先生は、休み時間に一緒に遊んだり、おしゃべりしてくれたりするか。	ほとんどの児童が「適切である」と感じている。	A	②基本的な生活習慣については毎月の「生活目標」で取り上げたため、あいさつや言葉づかい、時間のけじめ等、学級担任の指導が浸透しつつある。
	児：先生は、困った時にいっしょけんめい相談にのってくれるか。	ほとんどの児童が「適切である」と感じている。	A	③生徒指導における教職員の情報共有の評価が低かったため、2学期より全職員参加のケース会議を月に1回実施し、組織で対応を進めるよう体制変更を進めている。
	職：基本的な生活習慣を身に付けさせるための工夫がなされているか。	全ての教職員が「適切である」と評価した。	A	
	職：児童のことで職員が共通理解し、全体で取り組む体制が整備されているか。	4割が不十分であると評価した。	C	
道徳 人権教育	保：友だちの気持ちや考えをわかってとすることができる子に育っているか。	昨年度より低くなったが、概ね肯定的な評価である。	B	どの項目も概ね肯定的な評価であった。
	児：困っている友達がいたら、声をかけたり手助けをしたりできるか。	ほとんどの児童が「適切である」と感じている。	A	①異学年交流（たてわり清掃、たてわり遊び、委員会・クラブ活動など）を通じて、温かい人間関係づくりを継続して行っていく。
	職：児童一人一人のよさを認める指導がなされているか。	全ての教職員が「適切である」と評価した。	A	②年度初めに人権教育全体計画を作成し、全教職員が周知している。児童の人権意識を高めるため、日々の学級活動での指導や人権週間における人権標語作成を通して相手の気持ちを思いやる気持ちを育てている。
保健 安全管理	保：運動に親しみ、進んで体を鍛える子に育っているか。	4割程度が低い評価である。	C	①児童は概ね肯定的な評価であったが、保護者からは昨年度より評価が1割程度下降した。生涯体育をめざした学級の活動を発信しながら、家庭との連携を強めていく。
	児：進んで体力づくりに取り組んでいるか。	昨年度より低くなったが、概ね肯定的な評価である。	B	②学校では、運動会やマラソン記録会、なわとび集会などの行事に加え、休み時間等に担任と一緒に汗を流しながら遊んだりする活動が日常的となり、児童が自発的に運動するようになってきている。遊友スポーツランキングへ参加するなど、場を増やしていく。
	職：体育指導、健康教育の充実に努めているか。	15%評価が下がった。	B	③健康教育では、保健だよりを毎月発行し、必要な感染症対策や睡眠・食育等について家庭との共通理解を図っている。また、全学年で「食に関する指導授業」を行った。身体づくりの情報発信を通して、家庭との連携を強めていく。
	保：学校便りやタイムライン、学校公開、行事への参加等で学校の様子を知ることができるか。	昨年度より低くなったが、概ね肯定的な評価である。	B	①学校の様子を知らせる情報公開については、継続して高い評価を得ている。今年度は、タイムラインを通して昨年度よりもさらに多くの活動の様子を保護者に周知するよう努めている。
保護者・地域との 関わり	保：PTAの行事や活動などにより、保護者と学校が連携した取り組みがみられる。	昨年度より低くなったが、概ね肯定的な評価である。	B	②PTA活動については、遠山まつりを盛大に行い、多くの保護者の協力を得ることができた。また、学校支援地域本部事業として、多くの保護者に家庭科や図工、生活科の学習ボランティア協力を得ることができた。地域コーディネーターを校に、次年度はさらに活発化させていく。
	職：地域の教育力、外部人材を活用した授業や行事が充実したか。 (各教科学習支援・素敵な先輩シリーズ等)	全ての教職員が「適切である」と評価した。	A	③次年度も地域や家庭との連携を深め、児童の地域に対する誇りと愛情をさらに育てていく。

A(適切な評価である)、B(ほぼ適切な評価である)、C(やや不適切な評価である)、D(不適切な評価である)

4 次期の重点目標と改善のための方策

- 「主体的・対話的で深い学び」の実現のため、特に個別の学習支援とともに個々の考えを伝え合う活動に力を入れていく。また、協働的な学びを推進していく必要がある。
- 児童数は少ないものの、人数が少ないが故の人間関係の固定化に起因する生徒指導的な事案もある。少人数の特性を生かした異学年の交流をさらに推進していく。また、道徳教育・人権教育の推進をさらに進め、よりよい学校生活を送ることができるようしていく。
- 運動に関しては、遠山小ならではの普段の運動量の少なさを改善する必要がある。単に運動量を増やす取り組みではなく、休み時間等に楽しく体を動かすことができる活動内容の改善により、多くの児童が進んで運動に親しみ姿がみられた。今後も継続した体力向上を行わせていきたい。
- 保護者や地域から温かい支援を受けているものの、複雑な家庭環境によって生活習慣の乱れている児童や特別な支援を要する児童への対応を引き続き継続していく。
- 少人数のため、多人数での交流活動の経験ができない現状がある。地域人材との関わりを増やすとともに、近隣学校との交流を校外学習中心に進めていく。

令和7年度 学校関係者評価結果報告書

学校名	成田市立遠山小学校
-----	-----------

1 学校教育目標

育て駒っ子 かしく やさしく 健やかに ～ふるさとを愛し 未来をたくましく切り拓く～
--

学校関係者評価委員

2 本年度の重点化された具体的な目標

①確かな学力の育成	・基礎的・基本的な知識・技能を習得させ、基礎学力の向上を図る。 ・授業力の向上をめざし、教職員一人一人が自ら進んで研修する姿勢を大切にす。
②豊かな心の育成	・人権尊重の理念の理解を基盤に、いじめを許さない学校づくりに努める。 ・集団活動を通して、「ありがとう」と言える子、「ありがとう」と言われる態度を育成する。
③健やかな体の育成	・児童の実態を把握し、体育の授業及び日常生活における運動実践の充実に取り組める。
④地域と共に歩む学校づくりの推進	・学校とより一層年々だりの発行や学校ホームページの随時更新により、情報発信に努める。 ・地域の教育力を有効に生かして、地域に根ざした特色ある学校づくりに努める。
⑦安全安心な学校づくりの推進	・防災教育を充実し、「自分の身は自分で守る」という防災意識の定着を図る。
⑧特別支援教育の推進	・本人・保護者の立場に寄り添いながら、合理的配慮に関する共通理解を構築していく。
⑨教職員の働き方改革	・校内行事等のスリム化を図り、業務の総量を減らすことで児童に向き合える時間を創出していく。

目等 智子
岩澤 由訓
神崎 智美
波辺 仁道
藤崎 弘
嶋海 奈美

3 自己評価結果に対する学校関係者の評価・意見等

分野・領域	評価項目	評価の指標	取組状況	改善の方策	学校関係者評価	
					自己評価の適切さ	改善に向けた取組の適切さ
学校運営 教育課程	保：児童は学校が楽しいと感じているか。	全ての保護者から「適切である」との支持を得た。	A	①児童や保護者のアンケートからは、児童にとって楽しい学校であるという回答を得た。これは、小規模校ならではの異学年交流の充実や、保護者を含めた子どもたちが楽しみにしている様々な活動の充実、地域や保護者による学習ボランティア活動、近隣校との交流学習が大きな要因であると考え、次年度は、これまで以上に児童が主役となって、学校行事等に参画している体制を、教育活動全般にわたって計画していく。 ②地域コーディネーターとの連携をさらに広げ、地域人材の積極的な活用や保護者とともに学習活動の場を充実したものにしていく。	A	A
	保：児童の個性に応じた配慮や支援を行っているか。	昨年度より低くなったが、概ね肯定的な評価である。	B			
	児：遠山小は、明るく楽しい学校だと思うか。	ほとんどの児童が楽しい学校だと感じている。	A			
	職：各教科の年間指導計画・週案などが適切に作成されているか。	全ての教職員が「適切である」と評価した。	A			
学校関係者による意見等						
学習指導	保：教員はきめ細かい学習指導に努めているか。	概ね肯定的な評価を得ている。	B	①学校における学習指導については、概ね良好な評価を得ているが、児童自身の学習意欲等については、昨年度引き続き自己評価が低いままである。 ②2学期より職員研修に力を入れ、指導力の向上に努めている。 ③「問題解決的な学習の展開」と「発問の工夫」を授業改善の中心におき、一人一人の考えの状況と共通点を共有する学び合いを通じて、多角的な視点から課題解決に挑み楽しさを経験させていく。 ④タブレット端末活用の授業では、挙手による発表よりも画面上での意見交流が多く行われるため、来年度より質問を「意見交換（発信）しているか」と変え、実態に迫れるようにする。	B	A
	保：学習に進んで取り組む子に育っているか。	昨年度とあまり変わらず、低い評価である。	C			
	児：授業中、進んで発表しているか。	昨年度とあまり変わらず、低い評価である。	C			
	児：担任の先生は、間違えたり分からなかったりした時に、分かるようになるまで教えてくれるか。	ほとんどの児童が「適切である」と感じている。	A			
	職：一人一人の状況を把握し、個に応じた指導を行っているか。	昨年度より自己評価が上がった。	B			
	職：児童の興味・関心を生かした自主的・自発的な学習を行っているか。	概ね肯定的な評価である。	B			
学校関係者による意見等						
生徒指導	保：児童が困っていたり、悩んでいたりとときは、先生方が親身になって対応してくれるか。	昨年度より肯定的な評価が下がった。	B	①丁寧な教育相談については、保護者の肯定的な回答が下がっている。学校では、アンケートや教育相談等の充実、スクールカウンセラーの個人面談を実施するなど、問題の未然防止、早期解決に努めている。しかし、中には、悩みを抱えていてもアウトプットできないことも考えられるため、相談ポストの周知など、悩んでいることを気軽に相談できる場を増やしていく。 ②基本的な生活習慣については毎月の「生活目標」で取り上げたため、あいさつや言葉づかい、時間のけじめ等、学級担任の指導が浸透しつつある。 ③生徒指導における教職員の情報共有の評価が低かったため、2学期より全職員参加のケース会議を月に1回実施し、組織で対応を進めるよう体制変更を進めている。	A	A
	児：先生は、休み時間に一緒に遊んだり、おしゃべりしてくれたりするか。	ほとんどの児童が「適切である」と感じている。	A			
	児：先生は、困った時にいっしょけんめい相談ののってくれるか。	ほとんどの児童が「適切である」と感じている。	A			
	職：基本的な生活習慣を身に付けさせるための工夫がなされているか。	全ての教職員が「適切である」と評価した。	A			
	職：児童のことで職員が共通理解し、全体で取り組む体制が整備されているか。	4割が不十分であると評価した。	C			
学校関係者による意見等						
道徳 人権教育	保：友だちの気持ちや考えをわがらうとすることができる子に育っているか。	昨年度より低くなったが、概ね肯定的な評価である。	B	どの項目も概ね肯定的な評価であった。 ①異学年交流（たてわり清掃、たてわり遊び、委員会・クラブ活動など）を通じて、温かい人間関係づくりを継続して行っていく。 ②年度初めに人権教育全体計画を作成し、全教職員が周知している。児童の人権意識を高めるため、日々の学級活動での指導や人権週間における人権標語作成を通して相手の気持ちを思いやる気持ちを育てている。	A	A
	児：困っている友達がいたら、声をかけたり手助けをしたりできるか。	ほとんどの児童が「適切である」と感じている。	A			
	職：児童一人一人のよさを認める指導がなされているか。	全ての教職員が「適切である」と評価した。	A			
学校関係者による意見等	学校だけでなく、家庭（親一人一人）が自身について考えられるとよい。					
保健 安全管理	保：運動に親しみ、進んで体を鍛える子に育っているか。	4割程度が低い評価である。	C	①児童は概ね肯定的な評価であったが、保護者からは昨年度より評価が1割程度下降した。生涯体育をめざした学級の活動を発信しながら、家庭との連携を強めていく。 ②学校では、運動会やマラソン記録会、なわとび集会などの行事に加え、休み時間等に担任が一掃に声をかけながら進んだ活動が日常的となり、児童が自発的に運動するようになってきている。遊友スポーツランキングへ参加するなど、場を増やしていく。 ③健康教育では、保健だよりを毎月発行し、必要な感染症対策や睡眠・食育等について家庭との共通理解を図っている。また、今年度で食に関する指導授業（食育）を完了。身体づくりの情報発信を通して、家庭との連携を強めていく。	B	A
	児：進んで体力づくりに取り組んでいるか。	昨年度より低くなったが、概ね肯定的な評価である。	B			
	職：体育指導、健康教育の充実に努めているか。	15%評価が下がった。	B			
学校関係者による意見等	「運動」とか「鍛える」、「体力づくり」という言葉にはネガティブイメージをもっている子も、鬼ごっこやゲームではとてもよく動いている。					
保護者・地域との 関わり	保：学校便りやタイムライン、学校公開、行事への参加等で学校の様子を知ることができるか。	昨年度より低くなったが、概ね肯定的な評価である。	B	①学校の様子を知らせる情報公開については、継続して高い評価を得ている。今年度は、タイムラインを通して昨年度よりもさらに多くの活動の様子を保護者に周知するよう努めている。 ②PTA活動については、遠山まつりを盛大に行い、多くの保護者の協力を得ることができた。また、学校支援地域本部事業として、多くの保護者に家庭科や図工、生活科の学習ボランティア協力を得ることができた。地域コーディネーターを核に、次年度はさらに活発化させていく。 ③次年度も地域や家庭との連携を深め、児童の地域に対する誇りと愛情をさらに育てていく。	A	A
	保：PTAの行事や活動などにより、保護者と学校が連携した取り組みがみられるか。	昨年度より低くなったが、概ね肯定的な評価である。	B			
	職：地域の教育力、外部人材を活用した授業や行事が充実したか。 （各教科学習支援・素敵な先輩シリーズ等）	全ての教職員が「適切である」と評価した。	A			
学校関係者による意見等						

A(適切な評価である)、B(ほぼ適切な評価である)、C(やや不適切な評価である)、D(不適切な評価である)

4 次期の重点目標と改善のための方策

○「主体的・対話的で深い学び」の実現のため、特に個別の学習支援とともに個々の考えを伝え合う活動に力を入れていく。また、協働的な学びを推進していく必要がある。
○児童数は少ないものの、人数が少ないが故の人間関係の固定化に起因する生徒指導的な事案もある。少人数の特性を生かした異学年の交流をさらに推進していく。また、道徳教育・人権教育の推進をさらに進め、よりよい学校生活を送ることができるようしていく。
○運動に関しては、遠山小ならではの普段の運動量の少なさを改善する必要がある。単に運動量を増やす取り組みではなく、休み時間等に楽しく体を動かすことができる活動内容の改善により、多くの児童が進んで運動に親しみ姿がみられた。今後も継続した体力向上を行わせていきたい。
○保護者や地域から温かい支援を受けているものの、複雑な家庭環境によって生活習慣の乱れている児童や特別な支援を要する児童への対応を引き続き継続していく。
○少人数のため、多人数での交流活動の経験ができない現状がある。地域人材との関わりを増やすとともに、近隣学校との交流を校外学習中心に進めていく。